

<金標準先物、FOMC に向けて 6250 円へ下値模索の値動き・・・>



(出所：オアシス)

ECB 理事会で新型コロナ・ウイルスの感染拡大で導入された総額 7500 億ユーロのパンデミック緊急購入プログラム (PEPP) で月間 800 億ユーロの資産購入を 12 月に 600 億ユーロ～700 億ユーロへと縮小する事を発表している。

また年内テーパリング開始の不確実性の状況下で FOMC を控える中、マスター・クリーブランド連銀総裁は記者団に対しテーパリングについて「年内に開始し、来年上半年にかけて資産購入を段階的に終了していくことが非常に望ましい」と言及するなど、8 月の雇用統計を受けても年内テーパリング開始の動きは避けられないと考えられ、今後の金利の上昇に抑えられ金標準先物は 6 月の安値 6228 円へ向けた下値模索の値動きが強くなると予想される。

(2021 年 9 月 12 日記載)

<テクニカル>

金標準先物の日足を MACD と RCI で見ると、MACD において **MACD** が **シグナル** を下回る売りサインを示し、**MACD** と **シグナル** の乖離を示すヒストグラムでもマイナスサイドへ移行している。特に RCI における **短期** が下がり、**長期** が下げだしており、大勢感は下向きへと変化した状態である。そのため **200 日移動平均線** が位置する 6275 円へ向けた下落の過程であり、6 月の安値 6228 円を試す可能性が高まっていると思える。